

第 100 号
2014.2

北海道 米麦改良

麦作

・融雪促進と排水促進

稲作

・第51回(平成25年度)北海道優良米生産出荷共励会の審査結果について

お知らせ

・平成25年度 米麦生産技術講習会開催

・平成25年度 稲作・麦作総合改善研修会のお知らせ



会報誌「北海道米麦改良」はホームページでもご覧になれます。
<http://www.beibaku.net/>

一般社団法人 北海道米麦改良協会

売れる米を 低コストで 安定生産

めざそう 小麦の 品質向上

農産物検査の信頼性確保
を目指して

JA グループ北海道は一丸となって
農産物検査の信頼性確保に努めています

も く じ

麦 作	融雪促進と排水促進……………	1
稲 作	第51回(平成25年度)北海道優良米生産出荷共励会の審査結果について……………	5
お知らせ	平成25年度 米麦生産技術講習会開催 ……………	7
	平成25年度 稲作・麦作総合改善研修会のお知らせ ……………	8

麦 作

融雪促進と排水促進

北海道農政部生産振興局 技術普及課 道南農試駐在

主任普及指導員（農業革新支援専門員） 田 原 修 一

融雪の遅れは、秋まき小麦の雪腐病の発生を助長するほか、春まき小麦のは種遅れをもたらすなど、小麦の生育や収量に大きな影響を与える。昨年は、一昨年ほどではなかったものの雪腐病の発生が平年よりやや多く、多発した地域もあった。雪腐病の被害軽減には、融雪材散布による融雪促進が極めて重要である。また、融雪水の停滞は茎数確保や種作業にもマイナスとなるため、排水対策も欠かせない管理作業である。

1 融雪促進

(1) 秋まき小麦における融雪促進の効果

平成25年の融雪期及び雪腐病の発生は地域間差が大きかったが（表1）、雪腐病発生面積率及び被害面積率は共に平年よりやや多くなった（表2）。

雪腐病は一般に積雪期間が長くなるほど被害が増加し（図1）、積雪期間は融雪が遅れるほど長くなる傾向にある（図2）。

道内でも根雪が早く、融雪が遅い上川では、根雪終日が早まると出穂期が早まる傾向が見られる（図3）。出穂期が早まると登熟日数が長く確保され（図4）、最終的に収量が増加する傾向がみられる（図5）。

以上から、融雪促進は雪腐病の被害軽減、

特に積雪期間が長い地域では、登熟日数確保の点からも安定確収のための重要技術である。

表1 H25年の根雪終日（農試作況）

	H25年	平 年	差
長 沼	4月20日	4月8日	-12
比 布	4月20日	4月9日	-9
芽 室	4月5日	4月8日	+3
訓子府	4月10日	4月11日	+1

表2 H25年度雪腐病の発生状況

	面 積	率	左平年
発生面積	48,870ha	45.9%	37.0%
被害面積	9,100ha	8.6%	6.5%

※北海道病害虫防除所調べ

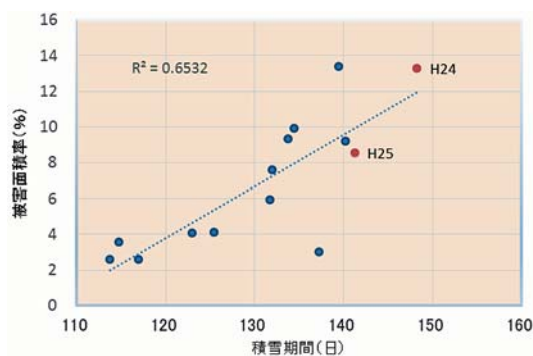


図1 積雪期間と雪腐病被害面積率

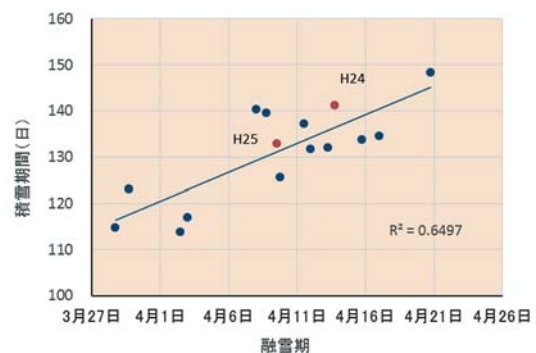


図2 融雪期と積雪期間（日）

※図1、2の融雪期・積雪期間は中央・上川・十勝・北見農試の4場平均値
雪腐病被害面積率は北海道病害虫防除所による全道集計値（H12～H25）

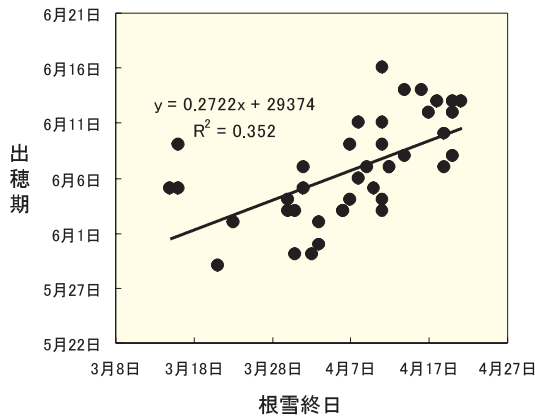


図3 根雪の終日と出穂期

(平成12~21年 上川農試作況調査)

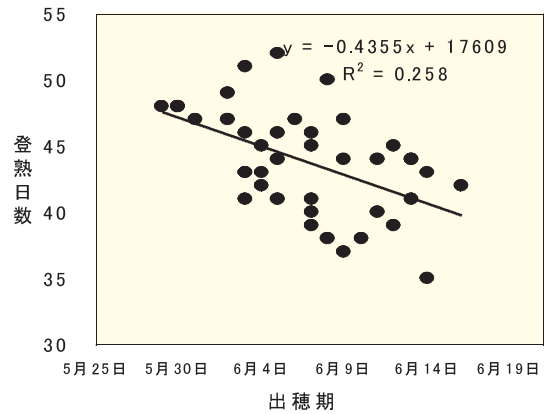


図4 出穂期と登熟日数

(平成12~21年 上川農試作況調査)

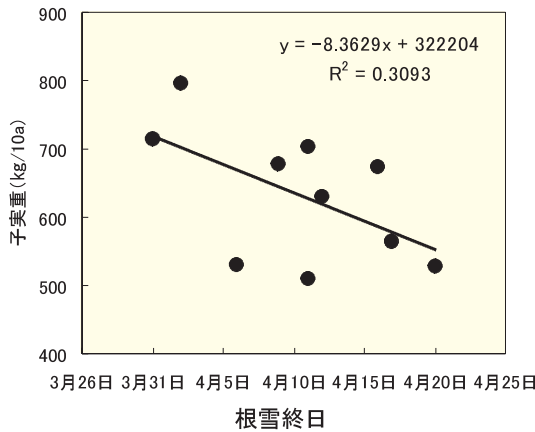


図5 根雪終日と子実重

(平成12~21年 上川農試作況調査)

(2) 春まき小麦における融雪促進の効果

春まき小麦は、は種が遅れるほど生育期間は短くなり収量は低下するため、生育期間を確保することが多収への第一歩となる(図6)。

また、は種時期が早いほど出穂が早まり赤かび病の発生が少なくなり、DON濃度も低

下する傾向にある(表3)。

春まき小麦の安定確収のためには、融雪促進による早期は種が極めて重要である。

ただし、初冬まき栽培においては、融雪を早めすぎると土壌の凍結により越冬した春まき小麦が凍上害を受けることがあるので注意が必要である(覆土をしないばらまきは種では特に注意する)。

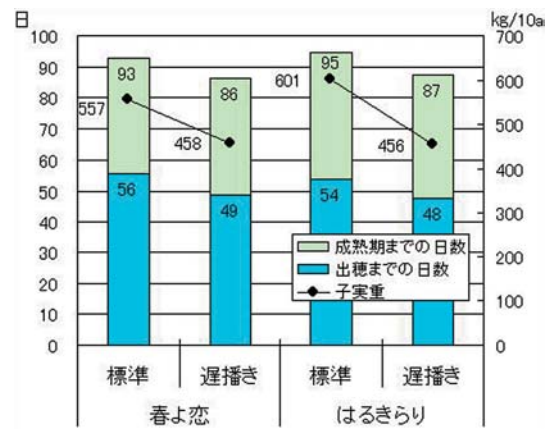


図6 播種期と生育日数

(H15~18, 上川農試)

表3 播種時期による赤かび病発生程度及びDON濃度の比較 (H14年 中央農試)

供試品種	播種時期	薬剤散布	出穂期 (月日)	発病穂率 (%)	赤かび粒率 (%)	DON濃度 (ppb)	収量 (kg/10a)	千粒重 (g)
ハルユタカ	4月12日	無散布	6月9日	6.0	1.20	1,389	434	42.5
	4月22日	無散布	6月16日	10.3	2.00	1,286	420	41.5
	5月1日	2回散布	6月23日	45.0	3.30	5,640	182	35.3
春よ恋	4月12日	無散布	6月9日	3.3	0.53	534	404	43.6
	4月22日	無散布	6月14日	4.7	0.67	538	451	44.7
	5月1日	2回散布	6月22日	18.0	1.00	2,545	302	38.3

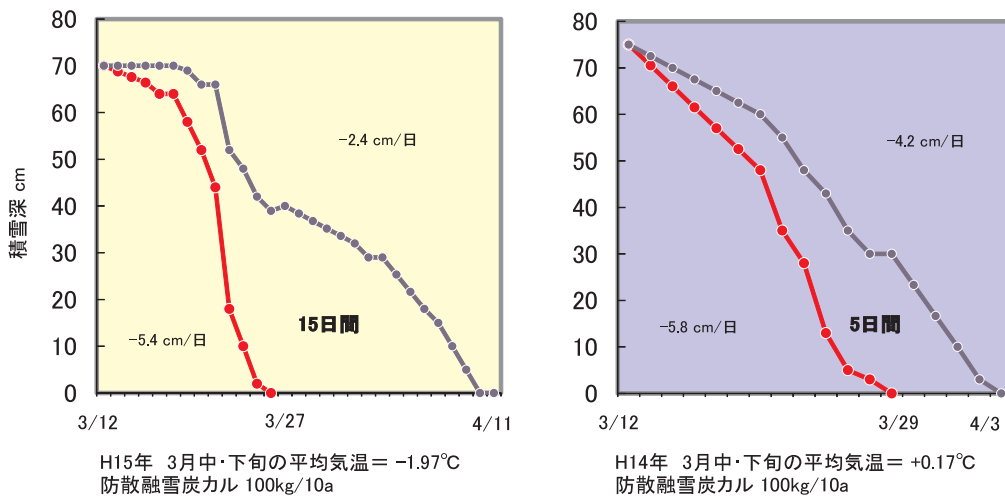


図7 融雪材の散布効果 (上川農試)

表4 融雪材の特性

資材名	日射吸収量	効果の持続性	土壌改良効果	施用量 (kg/10a)
アッシュ類	○	○	—	40~60
融雪炭カル	○	○	○	60~100
乾土	○~△	○	—	100~150

(3) 融雪材の散布

積雪量や温度条件によって異なるが、融雪材の散布により5~15日程度の融雪促進効果が期待される(図7)。散布適期は、日中の気温がプラス(日平均気温が-3℃以上)となり、20cm以上の降雪の確率が少なくなった頃である。

融雪材は、特性や効果により選択する(表4)。散布のポイントは、雪面の表面積を大きくすることであり、薄く均一に散布するよりも濃淡(縞状)をつけて散布する方が効果的である(写真1)。

散布後20cm以上の積雪があった場合は再散布が必要である。特に、積雪の多いほ場や多い部分では、融雪材を数回散布するつもりで早い時期から散布を始め、少しでも早く積雪深を下げようとする。

2 排水促進

秋まき小麦ほ場や春まき小麦初冬まき栽培ほ場において、融雪水の停滞は窒息による枯



写真1 融雪材の散布作業



写真2 雪上心土破碎

(写真提供:上川農業改良普及センター富良野支所)

死につながる。枯死部分は裸地となり減収はもちろんのこと雑草の増加によって、次の作物の生育や作業(除草)にも影響する可能性がある。

また、春まき小麦作付け予定ほ場では、は種作業を大幅に遅らせる要因となる。

ほ場に停滞水等が懸念される場合は、溝切りや雪上心土破碎（写真1）による表面排水促進に努める。また、水田転作畑で施工する場合、畦畔を切って明渠排水路につなぐことが重要である。

稲 作

第51回(平成25年度)北海道優良米生産出荷共励会の審査結果について

第51回(平成25年度)北海道優良米生産出荷共励会へ各地区から参加出展をいただき大変ありがとうございました。

平成25年産の稲作は冬期の豪雪や春先の天候不順により、作柄が懸念される状況にありましたが、移植期以降は、概ね平年を上回る日照・気温が確保され、順調に推移しました。

8月の日照不足や気温の変動等により、登熟の停滞や外観品質が低下した地域もあったものの、最終的な全道の作況指数は「105」と前年産に引き続き、良好な結果となりました。

このような作柄のもと、本年度は「個人の部」で4点、「生産グループの部」で1点の計5点の参加出展をいただき、先般、審査委員会の開催および現地調査の実施により、下記のとおり各賞を決定しましたのでご報告申し上げます。

本共励会の開催に際し、参加出展いただきました生産者の皆様、各JA・農業改良普及センター、地区米麦改良協会事務局をはじめとする関係機関・団体各位の皆様にはご多用のなか優秀な生産者のご推薦ならびに、ご指導・ご協力を賜りましたことを御礼申し上げます。

なお、概要は別途、審査概要報告書にまとめご報告いたします。

第51回(平成25年度)北海道優良米生産出荷共励会 受賞者名簿(敬称略)

【個人の部 第1部 うるち米(12ha以上)】

表彰名	氏名	市町村名	所属農協名
優秀賞	さとう のほる 佐藤 昇	江別市	道央

【個人の部 第2部 うるち米(6ha以上12ha未満)】

出展なし

【個人の部 第3部 うるち米(2ha以上6ha未満)】

表彰名	氏名	市町村名	所属農協名
最優秀賞	やまだ のほる 山田 登	旭川市	東旭川
特別優秀賞	はらだ じんいち 原田 盡一	留萌市	南るもい

【個人の部 第4部 もち米(2ha以上)】

表彰名	氏名	市町村名	所属農協名
最優秀賞	あべ たかのり 阿部 隆徳	剣淵町	北ひびき

【生産グループの部 第1部 うるち米 (50ha以上)】

表彰名	グループ名	市町村名	所属農協名
優秀賞	JA 東神楽クリーンライス研究会	東神楽町	東神楽

【生産グループの部 第2部 うるち米 (10ha以上50ha未満)】

出展なし

【生産グループの部 第3部 もち米 (10ha以上)】

出展なし

以上

稲作・麦作

26年産も良質な米麦をつくろう！

平成25年度良質米麦安定生産技術講習会開催のお知らせ

稲作

- ◎良質米安定生産のための栽培技術について
- ◎良質米安定生産のための病虫害防除について
- ◎米をめぐる情勢について



開催日時等		開催場所	
2月27日(木)	※麦講習会と合同	13:30~	札幌市 北農ビル19階 第3・4会議室
2月28日(金)	※麦講習会と合同	13:30~	羽幌町 羽幌町立中央公民館
3月5日(水)		13:30~	北斗市 北斗市農業振興センター
3月5日(水)	※麦講習会と合同	13:30~	倶知安町 ホテル第一会館
3月5日(水)		13:30~	鷹栖町 鷹栖地区住民センター
3月6日(木)	※麦講習会と合同	13:30~	今金町 JA今金町会議室
3月6日(木)	※麦講習会と合同	13:30~	岩見沢市 岩見沢平安閣
3月12日(水)		13:30~	北見市 北見農業会館 大会議室
3月19日(水)	※麦講習会と合同	13:00~	厚真町 厚真町総合福祉センター

※開催地で内容が変わることがあります。

麦作

- ◎良質小麦安定生産のための栽培技術について
- ◎良質小麦安定生産のための病虫害防除について
- ◎小麦をめぐる情勢について



開催日時等		開催場所	
2月26日(水)		13:30~	北見市 端野町公民館
2月27日(木)		13:30~	幕別町 幕別町百年記念ホール
2月27日(木)	※米講習会と合同	13:30~	札幌市 北農ビル19階 第3・4会議室
2月28日(金)	※米講習会と合同	13:30~	羽幌町 羽幌町立中央公民館
3月5日(水)	※米講習会と合同	13:30~	倶知安町 ホテル第一会館
3月6日(木)	※米講習会と合同	13:30~	今金町 JA今金町会議室
3月6日(木)	※米講習会と合同	13:30~	岩見沢市 岩見沢平安閣
3月6日(木)		13:30~	美瑛町 JAびえい大ホール
3月19日(水)	※米講習会と合同	10:30~	厚真町 厚真町総合福祉センター

※開催地で内容が変わることがあります。

どなたでも無料で受講できます。
お申込みやご不明な点がございましたら、
各地区米麦改良協会又は
北海道米麦改良協会までご連絡下さい。
多数の受講をお待ちしております!!



【講師】北海道・道総研農業研究本部・ホクレン・実需
【主催】ホクレン・各地区米麦改良協会・北海道米麦改良協会
【共催】北海道

稲作・麦作

平成25年度 稲作・麦作総合改善研修会のお知らせ

本年も良質な米麦の生産に向け、生産者・関係機関を対象とし、優良米麦の生産に役立つ研修会を開催致します。

米麦生産技術に係る優良事例発表の他、本年度の特別講演として「食と健康」や「地産地消」について、外部講師より講演を頂きます。

詳細については、別途、本会ホームページ・農業新聞による告知、ならびに地区米麦改良協会からの文書によりご連絡させていただきます。

生産者・農協職員の他、市町村・関係機関担当者の皆様も参加いただけますので、多数の受講をお待ちしております。

受講料は無料ですが、参加申し込みにつきましては、事前に地区米麦改良協会等へご連絡願います。

1. 日時 平成26年3月3日(月) 13時00分より(12時30分受付開始)
2. 場所 ホテルモントレエーデルhof札幌
(札幌市中央区北2条西1丁目 TEL:011-242-7111)



平成24年度 稲作・麦作総合改善研修会

【平成25年3月1日(金) ホテルモントレエーデルhof札幌】

融雪促進と排水促進で 春の訪れを早めよう。

融雪材散布時期の目安



融雪材の特性・散布量

資材名	目的	効果の 吸収量	効果の 持続性	土壌 改良効果 (kg/10a)	施用期
アッシュ類	○	○	○	40~60	—
融雪改良カル	○	○	○	60~100	—
乾土	○~△	○	○	100~150	—



水田も融雪材散布で 融雪促進



- ◆雪上心破で排水促進
- ◆溝掘り・排水口確保で
表面水排除

乾田化
地温上昇
乾土効果
地耐力向上

初期生育の向上



良質米麦の出荷目標



一等米 100%
整粒歩合80%以上確保
精米蛋白質含有率6.8%以下
仕上がり水分14.5～15.0%
入れ目1%以上確保
全量種子更新



一等麦 100%
低アミロ麦皆無
DON暫定基準値1.1ppm
以下でできるだけ低いこと
赤かび粒混入限度 0.0%
異臭麦皆無
十分な入れ目の確保
全量種子更新

農産物検査事業の方針

公平、公正、迅速に行う。
必要な技術的能力の維持・向上に努める。
客観性・公平性から他部門からの影響排除。
制度の適正な運営に寄与する。



発行所

一般社団法人 北海道米麦改良協会

〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル5階 TEL 011-232-6495 FAX 011-232-3673

【業務部】E-mail beibaku@basil.ocn.ne.jp

【検査部】E-mail beibaku-kensa@carrot.ocn.ne.jp

北海道米分析センター

〒069-0365 岩見沢市上幌向町216の2 TEL 0126-26-1264 FAX 0126-26-5872

E-mail bun1@plum.ocn.ne.jp

<http://www.beibaku.net/>